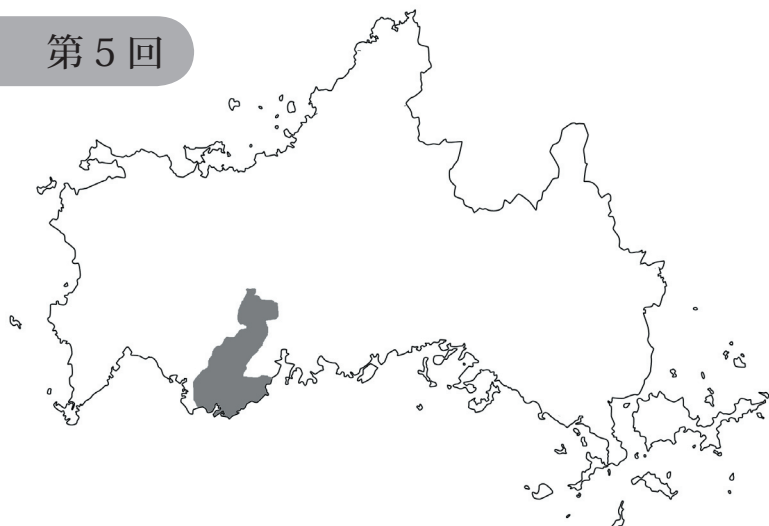


郡市医師会めぐり 第 5 回

宇部市医師会



宇部市医師会は、明治 22 年 4 月に宇部村が誕生し、大正 10 年 11 月 1 日に宇部市制へ切り替わった際に、26 名の医師会員により宇部市医師会創立総会を開催し、山口県からの許可を得て大正 11 年 1 月 9 日に正式な「宇部市医師会」が誕生しました。その後、第二次世界大戦の激動の時代を経て、昭和 22 年 11 月からは現体制の「社団法人宇部市医師会」として 70 名の会員で再出発し、平成 23 年 11 月には、創立 90 周年の記念式典を開催致しました。また、この度の公益法人制度改革に対応し、今年 4 月には一般社団法人へ移行する予定です。

宇部市は、ご存じのように、山口県の南西部に位置する、人口約 17.3 万人の小都市で、山口大学医学部附属病院や山口宇部空港があり、医療や交通の要となっています。

当医師会の事業は、医師会本体、所属施設として宇部看護専門学校、宇部市医師会訪問看護ステーション、宇部市医師会在宅介護支援センターがあります。

宇部看護専門学校は、昭和 29 年 4 月に宇部市医師会附属准看護婦養成所として開設され、昭和 33 年 4 月には宇部准看護学院と改称、また、昭和 50 年 4 月からは宇部高等看護学院を設置し、昭和 52 年 4 月には宇部看護専門学校と改称し、両者は、平成 5 年に統合され現在に至ります。宇部看護専門学校の校旗は、平和のシンボルの鳩が 3 羽、翼を広げて「看」の字を囲みそれぞれ

が「愛」「和」「希望」を表現しています(写真 1)。課程は、高等課程准看護科(2 年)と専門課程看護科(3 年)があり、どちらも 1 学年が 50 名の定員となっております。准看護科資格試験と看護師国家試験の合格率は両者とも 100%近くで、山口県下の医師会立の看護学校においてトップクラスです。

当医師会は、何よりも市民目線による活動をモットーにしております。昭和 36 年は、医療費問題で全国一斉休診を行った年ですが、この年の



平和のシンボルの鳩が 3 羽、翼を広げて「看」の字を囲み、それぞれが「愛」と「和」と「希望」を表現しています。

写真 1 宇部看護専門学校 校旗



写真 2 市民のための医療フォーラムが表彰されました

9 月に山口県で最初の在宅日曜当番医制度を当医師会が開始しました。また、高齢化社会を見越して平成 8 年に医師会立訪問看護ステーション、平成 10 年には医師会立の在宅介護支援センターを開設し、公平な立場として市民に医療や介護が受けられるよう日々研鑽しています。

また、宇部・小野田圏域では、県内でも病診連携や診療連携が先進的に行われている地区ですが、平成 16 年には「医療と福祉と地域の連携」をメインテーマに宇部市医師会地域連携推進懇談会を立ち上げました。平成 19 年より脳卒中・大腿骨頸部骨折・急性心筋梗塞・糖尿病・がんの連携パスを策定し、これらのパスは順調に機能しております。現在、宇部・小野田地区の急性期 11 病院と慢性期 6 病院が加入し、各病院の地域連携室と診療所が密に連携を取りながら、認知症や救急診療等の課題に対して積極的に取り組んでいます。特筆すべきは「在宅緩和ケアを中心とした癌の医療連携」の分科会において「宇部市医師会緩和ケア地域連携パス」を作成したことです。がん患者さんが治療終了後、在宅医や緩和病棟へ円滑に移行できるようにという試みで、医師会が主導したパスは全国的にも希有で、かつ有効であると好評価をいただいております。さらに、「宇部・小野田・美祢圏域を対象とした地域医療連携情報システム」については、圏域内の医師会が中心となり、診療所・病院・福祉施設等を有機的に繋ぐシステムの構築を検討中です。これらの連携を活用することによってさらに市民の健康を守れると



思います。

次に、市民に医療のことをよりよく理解してもらうために平成 10 年に第 1 回「市民のための医療フォーラム」を開催し、以後は年 2 回のペースで実施しておりますが、平成 22 年からは、名称を「市民と考える医療フォーラム」に改名しましたが、同年、このフォーラム実行委員会が県医師会より表彰を受けました（写真 2）。さらに、平成 24 年 2 月 26 日に宇部市医師会創立 90 周年かつ宇部市制施行 90 周年記念事業を兼ねて第 27 回目の医療フォーラムを宇部市渡辺翁記念会館で行いました。講師にはマスコミ関係でも有名な精神科医である立教大学教授の香山リカ先生をお招きし、「笑顔の処方箋～しがみつかない生き方、震災から学ぶ新しい生き方～」というタイトルでご講演を賜りました。市民の参加者は主催者

発表で約 1,000 人と報道され盛況に終わりました（写真 3）。

また、当医師会は、山口大学医学部とタイアップして、さまざまな救急活動に参加しております。東日本大震災時には、当医師会員が JMAT 等に加わり救助活動を行いました。年 2 回の AED 講習会、花火大会やマラソン大



写真 3
宇部市医師会
創立 90 周年記念講演
講師 香山リカ先生



写真 4

第 66 回 山口県医師会総会における
「山口宇部空港消防救難訓練」の表彰
を受けて

宇部市医師会・救急蘇生委員会

会における救護を行っておりますが、当医師会の救急蘇生委員会が「山口宇部空港消防救難訓練」の功績を評価され、第 66 回山口県医師会総会で表彰をいただきました（写真 4）。この活動は、平成 7 年 1 月 17 日に起こった阪神・淡路大震災を機に宇部地域集団救急救護訓練の一環として当医師会、宇部市、宇部市消防本部、宇部警察署、山口宇部空港事務所の 5 機関が垣根を越えて航空機事故の発生を想定した訓練を行ったことに始まります。

さらに、当医師会の広報委員会について付け加えてさせていただきます。対内的には、年 4 回の宇部市医師会報はもちろん、対外的には、「医師会かわらばん」という市民向け広報紙を年 2 回発行し、3 大新聞への折り込みに加えポスティングに

より宇部市の全世帯に配布しております。その他、宇部日報紙への「知っておきたい病気」というコラムを各科の持ち回りで毎月掲載しています。また FM きららへの出演や FM きららマガジンへの医師会 PR 活動などを行っております。なお、この度、当医師会のホームページをリニューアルしましたので一度お立ち寄りください（写真 5）。

最後になりますが、当医師会の抱負につきまして述べさせていただきます。昨今の医療情勢を取り巻く環境は大変厳しい状況ですが、私たちは行政とも連携をとりながら病気の治療だけでなく、市民の健康管理などの予防的医療に積極的にかかわることで、健康寿命を伸ばし地域住民にとってなくてはならない存在になりたいと思います。

〔宇部市医師会 広報担当理事 西村 滋生〕



写真 5 宇部市医師会ホームページ